

第3回 歴史探訪と総会 『古大和川治いの牛頭天王社をめぐる』

1. 集合時間 6月8日(土) 12時20分(時間厳守) 雨天決行
2. 集合場所 近鉄大阪線弥刀駅改札口
3. 費用 参加費無料(一般500円)
4. 案内 東大阪文化財を学ぶ会
5. 行程 全行程徒歩 約4km

御劔神社、(右岸堤防跡)、友井墓地、弥刀神社・八坂神社、長瀬神社、吉松新田会所跡、(左岸堤防跡)、有馬御廟、横沼共同墓地、(かつて川巾700m)、弥栄神社、小坂神社、平和を祈る乙女像、

6. 総会 場所:谷岡記念館・多目的室、開会:15時 閉会 16時30分

- ・2023年度活動報告、決算報告
- ・2024年度活動計画、予算について
- ・幹事、役員承認 など

① 御劔神社

御劔神社は、950年前に友井4丁目の現「法敬寺」の東北方に創祀せられていたものを、享保元年(1716)管原道真公を合祀して現在地の友井3丁目11番地に遷座した。以前は牛頭天王と号していた。牛頭天王とは素戔嗚尊を祀った神社である。

明治2年の頃に「御劔神社」と改称された。本殿は幾度かの災いに遭い弘化4年(1847)再建し、明治13年11月及び昭和7年10月に小修理をなされ、その折り盛大な祭典を執り行われたようである。

明治42年に若江鏡神社に合祀されたが昭和21年9月に現神社に正遷座された。

祭神の素戔嗚尊は出雲氏族の祖神で英雄神といわれ出雲、紀伊地方の八俣大蛇(やまたおろち)退治で有名、植林事業などで人間に福を授ける神とされる。また、管原道真公は、平安前期の学者で政治家でもあり「天神さま」として広く学問の神様として信仰されてきた。

本殿前庭部には元禄15年(1702)の灯笼一对、宝暦年間(1751~64)の「牛頭天皇」(天王が正しいが碑文は天皇)の碑が残っている。また、本殿には管原道真神像があり、その台座に享保元年の銘がある。また、正面扉には素戔嗚尊の象徴である「松」、側壁面には管原道真の象徴「梅」描かれている。

<友井墓地>古大和川の右岸堤防にあった。今の道路と墓地の地面との段差が2m位あり当時の堤防の高さがよくわかる。左岸の堤防跡は、金岡公園西側の「百間堤跡」を見ればよくわかる。

② 彌刀神社(式内社)

平安時代の延長5年(927)に完成された延喜式神名帳には、河内国若江郡二十二座の中に記載されている式内社で、官幣小社だった。社殿には、河口の神、速秋津日子神と速秋津比売神を主祭神としてお祀りしている。

創建年是不詳だが、天平宝宇6年(762)の「続日本記」という歴史書に、旧大和川(現長瀬川)長瀬堤の決壊による激流で、社殿がごとごとく流失したという記録がある。当時は川幅が200m以上もある旧大和川の洪水による水害が度々あり、その水戸(みなと)の守り神として当神社があった。昔の神社用地は現在よりも広く、西の鳥居から旧大和川右岸堤防跡までに、お旅地・馬場地・御供田といった神社関係の小字名が連続して残っている。本来は近江堂の村内き(東向き)であるべき社殿が川向き(西向き)に構えられているのはそのようなことから考えられる。



このことは祭神水戸（みなと）の神とも符合し、水戸が彌刀となり、大水戸が近江堂となった現在の地名も伺える。『御鎮座由緒略記』より

摂社八坂神社には災害や厄除けの神、須佐之男命（牛頭天王）を、末社常世神社には医療やまじないの神、大己貴命（おこなむちのみこと・大国主命）をお祀りしている。

八坂神社の社殿は、一間社春日造檜皮葺。建立年代は不明だが、斗拱（ときょう）・虹梁（こうりょう）・主屋木鼻の渦・若葉などの細部に江戸時代中期の特徴があり、市の有形文化財に指定されている。

③ 長瀬神社

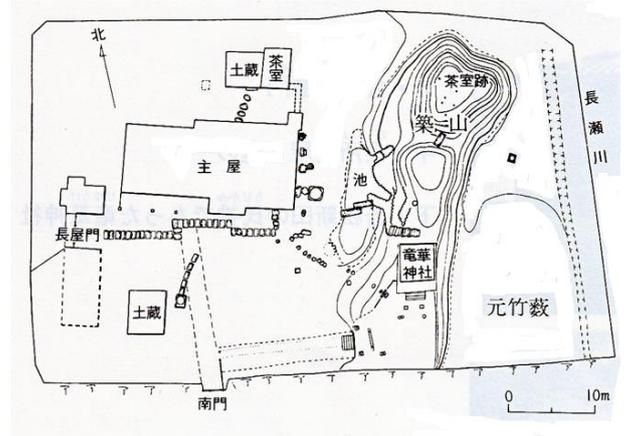
旧大和川堤防であった南山の地に大正元年（1912）12月創建されたもので、比較的新しい神社だ。明治22年の市町村合併で長瀬村が誕生したが、それ以前の大蓮村、衣摺村、吉松新田、横沼村、柏田村、北蛇草村にあった8つの神社を明治39年の神社整理令（一村一神社）によって合祀された。その8社とは、蛇斬（じゃさき）神社、天神社（横沼と柏田）、衣摺神社、白山神社（大蓮と柏田）竜華神社と波牟許曾神社。

8つの神社を合祀しているためか、本殿は旧村のあった西に向かって建っており、参道は南、北、西に開かれている。いずれの参道にも立派な鳥居がある。祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊をはじめ、素戔鳴尊、保食神、管原道真、応神天皇、菊理姫など。

境内には多くの石造物が配置されている。石造物の中で特筆すべきは、東大阪市内では最古とおもわれる灯籠一基が本殿南側の庭にある高さ203cmの「正保4年（1647）長覚寺牛頭天王石灯籠」と、高さ199.5cmの「延宝8年申（1680）」銘の牛頭天王灯籠がある。また、珍しい雄の象徴が刻まれた寛政五年癸丑（1793）銘の阿形の狛犬（獅子）がある。

④ 吉松新田会所跡

宝永元年（1704）の付替工事により、その古大和川の跡に用水路（長瀬川）を開削し新田が拓かれた。それが金岡新田、吉松新田、菱屋西新田などで、吉松新田は大坂の商人末長甚兵衛によって拓かれた。開発された吉松新田（約16ha）の土地管理と年貢徴集などの仕事をした事務所が「吉松新田会所」で昭和51年まで残っていた。会所には長屋門と幹周り2～3mのエノキの巨樹があり、入母屋造りの主屋、土蔵、茶屋、そして生駒山を借景にした池と築山があり、南側に吉松新田の氏神・竜華神社の祠、石鳥居、狛犬、石灯籠があった。その石鳥居、狛犬、灯籠は長瀬神社に移されている。



また、吉松新田会所前は吉松浜と呼ばれ、船着き場があり剣先舟が行き交っていた。奈良や大坂の町、瀬戸内海の町とも繋がり商人達が利用し野菜や米などの物資を運んでいた。学校の西側が堤防であったので長瀬北小学校校舎全体が古大和川の中にあつたことになる。

⑤ 有馬御廟（「有馬之三昧」長瀬墓地）

『大阪府全志』四に、「行基は和銅7年五智如来を表して畿内の5国に5ヶ所の墓地を設け、霊龜2年「二十五三昧無量樂」の経文に基づきて更に25ヶ所の墓を設け、當院三昧は其の第九番に当たれり。

行基は道昭法師の弟子にして、法師は火葬の元祖なれば、行基も其の志を繋ぎて火葬を奨励せしものならん。行基苑墓地整理するに際し、土中より現れたる死屍には自ずから鋤を以て土を掩ひしことあり、故に行基の木像の多く如意を持たせるに反し、當院に安置セル同木像の鋤を持たせるは之に因めるなりという。」と述べている。行基が火葬を採用したのは、師の道昭が我国で最初の火葬に付されたことと繋がるかもしれない。

因みに、1349年、融通念仏宗第七世・中興の祖といわれている法明上人は、71才で薨去され「有馬之三昧」で荼毘に付されている。それによって法明上人は「有馬上人」といわれ、御廟を「有馬御廟」と称した。

平野の融通念仏宗大本山大念仏寺から「有馬御廟」に参詣する道を「上人道」と称し、多くの人々の往来があった。

⑥ 彌榮（いやさか）神社と馬立（うまんたて）跡

神社は旧大和川支流の東岸近くに位置し、もとは牛頭天王と称されていた。創建年代は不明。

祭神は素戔男尊。伝えによれば、元亀元年（1570）から天正8年（1580）にかけての、本願寺門主の顕如が石山本願寺に籠もって戦った浄土真宗本願寺勢力（一向一揆）と織田信長との戦い、いわゆる石山合戦により村落と共に焼失したといわれている。その後、慶長5年に片桐且元より社地を拝領し社殿を再建したと、宮の記録に記されている。明治65年に現在の社名に変わった。

境内には文化2年（1805）の手水鉢、旧社名の牛頭天皇宮と刻む享保13年（1728）の燈籠、文政11年（1828）の狛犬等がある。また、境内には旧大和川支流の堤防上に生えていた樹木（ニセアカシア）が数本残り、いずれも堤防の土が取り去られたため、土中にあった根が浮き上がった状態から「根上の木」と呼ばれている。

彌榮神社北側の一段高いところは、中小坂の村落を洪水から守るために築かれた新堤の跡であり、今ではガレージに取り囲まれているが、彌榮神社の御神木にもなっている一本の楠木がある。慶長20年（1615）5月6日の大坂夏の陣、若江に陣をはっていた木村重成は敵に囲まれた大阪城へ救援に向かうとき、ここまで来ると、大坂城が炎に包まれていたという。楠木に手綱をつなぎ、馬の背の上に立って大坂城に別れを告げ、再び若江に戻って戦死したという。このことからここを馬立（うまんたて）という。（東大阪市の説明板）

木村重成は当年22才ともいわれ美しい若武者であったが、討ち死を覚悟した木村重成の毛髪から匂い立つお香の薫りに、首実検した徳川家康は、その見事さに「言葉を失った」と言われている。

⑦ 小坂神社

由緒書きによると御祭神は、天水分神・國水分神・受鬘命（うけのりのかみ）。「元禄年間、下小坂の原野を開拓した移住者達が水利至便のため大和の国吉野の水分大神（みくまりおおみかみ）と袖振山の受鬘命を祀ったのに始まるとされている。もと子守勝手明神といわれていたが、明治5年に小坂神社と改称されている。」

『小坂神社略記』には、御祭神の紹介の後、「本地は古来若江郡に属し、北小坂村と称していたが、寛永10年（1633）正月、下小坂村と改称する。これより以前の天正2年（1592）、18軒の家がこの原野開拓に当たり、水利至便、五穀豊穰を祈願する為、当社を奉祀したのが起因である。」

「水分」とは、水を配り与える、すなわち灌漑を司る神の名である。後に語原が変わり「みくまり」が「身籠（みこもり）」となり更に「籠（こもり）」となり妊婦、安産、子授け神として世に「小坂こもり宮」と称し、後に子守勝手明神ともいわれ近郷の崇敬を集めた神社である。

昔は境内に葦が密生していたと伝えるように、この付近は旧大和川支流の自然堤防の東側に後背湿地が広がっていた。この湿地を開発した水田は、多雨期の水浸かりによる損害とともに、一旦日照りが続けば、灌漑用水を上流や古田が優先して取得するため旱害に苦しんだといわれている。こうした状況に対する人々の心の拠り所として、この神社が祀られたと考えられる。

境内には明治23年（1890）に建てられた鳥居の横に、寛政5年（1793）と享和2年（1802）銘の燈籠一対がある。参道西側には白龍稻荷大神の小祠がまつられ、金毘羅大権現の前に「寛政四壬子年（1792）」と刻む燈籠があり、もと社務所の位置にあったといわれる稻荷大神の前には風化した竿部分に年号等は確認できないが、基礎部分に連弁を施す18世紀前半頃の燈籠が残されている。

⑧ 平和を祈り乙女像

昭和20年8月6日の広島に原爆が落とされた晩の10時頃、小阪駅に空襲があった。翌日の朝刊に「6日西宮方面を焼爆した敵機のうち最期に近いものが脱去の途、布施市各所に焼夷弾を投下した、……」という記事があった。たった一発の焼夷弾。それも、空母に帰還する途中の落とし損なった一発。



平和を祈る乙女像

駅周辺での聞き取りで、「うちの呉服屋、戦災で燃えましてん」（小阪駅前自治会長の福井さん）。「当時、男性は戦地や学徒動員で、罹災者は少なく、落ちてきた焼夷弾を職員・医師総出で拾って処理したので病院は助かった」（竹村産病院・竹村志すゑさん）を筆頭に空襲経験者は女性が多かった。

『東大阪市史』には「8月6日は小阪駅前南側が空襲を受けた。当時小阪駅の南150mにあった布施郵便局は辛うじて類焼を免れた。全焼123戸、半焼22戸の被害があった。別の史料では布施署管内で全焼141戸、全壊32戸、罹災者656人とある（小山仁示『大阪大空襲』）。

実は、この像の元の名前は、「鳩をいただく少女像」であった。昭和50年頃に駅前に進出した銀行が、平和な世の中、街の発展と住民の安全な生活を祈願して建てられたそうだ。広島に原爆が投下された当日の小阪駅夜間空襲での被害については、意識してなかったそうだ。

ただ何となく見ていた「鳩を抱く少女像」から見えないもの、像が建てられた経緯を探ってみると、そこに戦争の不合理性、虚しさが見えてきた。

因みに、1945年の東大阪への空襲を紹介すると、

- 3/13～14 深夜11時20分。足代、三ノ瀬などで第三国民学校の校舎一棟を含む131戸が全焼、4人の死者。
- 3/25 一機来襲 長田、新家、荒本などの田畑に投弾。
- 5/9 高井田東など5ヶ所が被弾。1戸が全壊。高射砲によるB29撃墜
- 6/11 額田、英田への空襲。7戸が全焼。
- 6/15 足代、長堂、高井田などを爆撃。日本大学専門学校（現近大）、航空工業学校（現布施工科高等学校）、楠根国民学校（現東大阪市立楠根小学校）を含む609戸が全焼。死者7人、行方不明者9人。
- 8/6 小阪駅前、123戸が全焼。

《お知らせ》

◎河内の郷土文化サークルセンター オープンセミナー開催（無料）

5月28日（火） 5月29日（水）

◎受付 〆切：令和6年5月24日 正午まで

・メールでの申込み kkcccircle@gmail.com

件名を「春季オープンセミナー 申込」とし、本文に必要事項（下記参照）を記入のうえ、送信ください。

・FAXでの申込み ☎06 4306 3035

お名前と、住所、そして下記の参加されたいセミナーの番号を明記してください。

◎セミナー番号④の参加については文化財を学ぶ会会員の皆さんは申込不要。是非ご参加下さい。

	日時	会場	サークル名	当日の内容（予定）
①	5/28(火)10～12時	A	河内木綿コットンクラブ	綿から布へ（繅繰り、糸つむぎ、手織りの体験）手織りのキーホルダーを作ります。織ったものを持ち帰っていただけます。河内地方の産業として経済の一翼を担っていた河内木綿について体験しながら学んでみませんか？
②	5/28(火)10～15時	B	彩装クラブ	日本画等の作品展示（2サークル合同展示）
③			中河内拓本クラブ	拓本の作品展示（2サークル合同展示） 拓本の実演
④	5/28(火)13～15時	A	東大阪文化財を学ぶ会	かわち野に吹く風 歴史探訪特別講座 町歩きを楽しくする歩き方 その1 「神社から郷土の歴史を探る」（スライドを使ってお話をします）
⑤	5/28(火)15～17時	B	宮本順三記念館 豆玩舎 ZUNZO	2024年度企画展「ZUNZO 博覧会～世界の建物と風物」展示紹介とセルロイドの歴史とお話（プラスチックの現在～未来について、70年代万博記念品も紹介）
⑥	5/29(水)10～12時	A	もんじ文化愛好会	「ミニ和綴じ本作り」および作品展示（手作り製本をとおして、「もんじ」に関する研修と親睦の輪を広げる活動を行っています）
⑦	5/29(水)10～12時	A	日下古文書研究会	サークルの活動案内と出版物の展示（日下及び周辺地域に遺された古文書・日記類を解説し、取材・調査研究によって郷土歴史の解明につなげる活動を行っています）